

マイバッグを持参し、レジ袋の削減にご協力ください



日野市では、「地球温暖化対策とCO₂削減」の一環として、5R

発生回避：リフューズ
発生抑制：リデュース
再利用：リユース
再生利用：リサイクル
資源物の返却：リターン

を推進しています。

また、「プラスチック類の排出抑制」「ごみの焼却量の最小化」を目指し、地球温暖化防止、CO₂削減につなげるため、広範囲かつ大量に使い捨てが行われているレジ袋を削減する取り組みを行っています。

そのためには、発生回避（リフューズ）の観点から、ごみになるもの（レジ袋）を家庭に持ち込まないことが重要であり、買い物の際はマイバッグを持参し、レジ袋を断るといった取り組みが必要です。

マイバッグを持っていくだけではダメ！

毎年5月・10月に「マイバッグ強化月間」として、市内スーパーでマイバッグ持参の出口調査（下図参照）を実施しています。

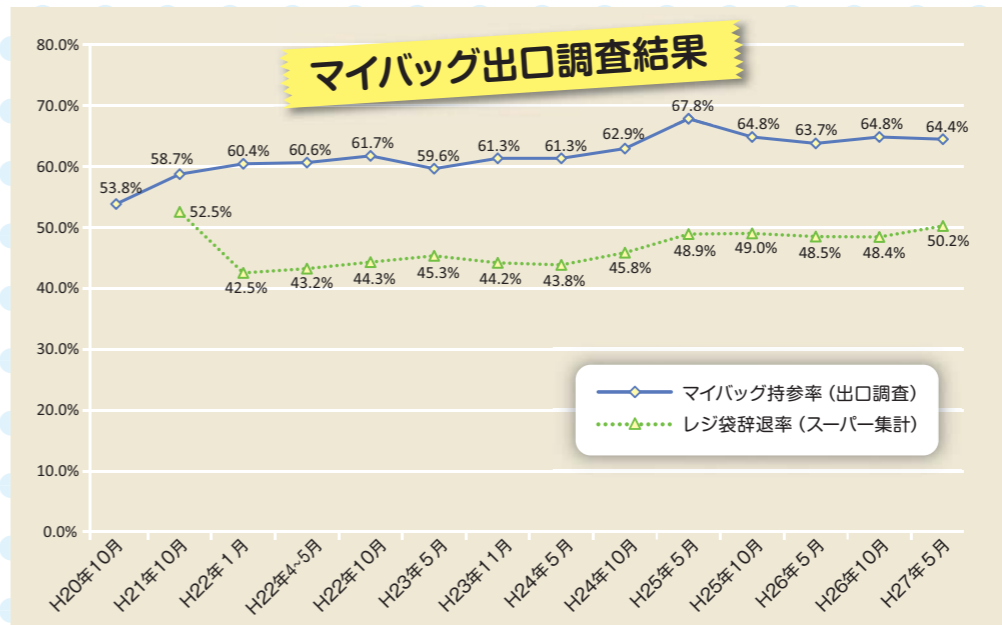
皆さまのご協力により、平成20年度には53.8%だったマイバッグ持参率は、平成25年5月の67.8%をピークにおおむね64%で推移していますが、市内各スーパーが実際のレジで集計した「レジ袋辞退率」は50.2%にとどまっています。

この差はなぜ生まれるのでしょうか？実はマイバッグを持って買い物に行っても、レジ袋をもらっている方がいるからです。

レジ袋で小分けにしたものをマイバッグでひとまとめにして持って帰る行動は、便利ではありますが、これでは環境への負荷は変わりません。

買い物の際はマイバッグを持って行く

だけでなく、「マイバッグを持っていくだけではダメ！」という取り組みにご協力をお願いします。



身近なこととして考えてみませんか

プラスチックごみが引き起こす海洋汚染について

日本の周りを取り囲む海には、さまざまなごみが漂っています。これらのごみの多くはプラスチックごみと言われています。

私たちの身の回りにプラスチック製品が増えるにつれ、それらがごみとして排出される量も増えています。これらが海へ流出すると分解されずに漂流します。

そして、時間とともに劣化し、細かく砕けて小さなプラスチック片となり、魚や鳥などの生物がそれを食べてしまったり、こうした海洋汚染を引き起こすプラスチックごみの中には、レジ袋な

どのビニール製品も含まれています。

日野市は沿岸にある市ではないので、「海洋汚染と聞いても、身近な問題として考えられない」と思われる方もいると思いますが、海に漂流するごみには川から流れ込んだものが多く含まれているのです。日野市には多摩川と浅川という

大きな川が2つと、それらに流れ込む支流や用水路が数多くあります。そこに捨てられたごみは、いずれは海に流れ込むと考えられます。

レジ袋は捨てるつもりはなくても、風で飛ばされたりしているのをよく見かけます。それが川に落ちれば、海へ流れ込み海洋汚染の原因ともなりかねません。

地球温暖化防止やCO₂削減だけでなく、海洋汚染防止の一環としても、レジ袋削減の取り組みにご協力をお願いします。

地球温暖化防止やCO₂削減だけでなく、海洋汚染防止の一環としても、レジ袋削減の取り組みにご協力をお願いします。